

平成29年度（第61回）
岩手県教育研究発表会発表資料

いきる・かかわる・そなえる 分科会

郷土を愛し復興・発展を支える人づくり
～「いきる」「かかわる」「そなえる」の実践を通して～

平成30年2月9日
宮古市教育委員会
宮古市立河南中学校
鈴木 朋 弘

1 本校の教育目標と復興教育の関連

校訓 「克己」～ふるさと「みやこ」をつくるひとづくり

学校教育目標

健康な生徒

いきる

生命の大切さ
心のあり方
心身の健康

心豊かな生徒

かかわる

人の絆の大切さ
地域づくり
社会参画

自ら学ぶ生徒

そなえる

自然災害の理解
防災や安全

2 目指す生徒像の具現化のために

健康な生徒

「いきる」

震災津波の経験を踏まえた

生命の大切さ・心のあり方・心身の健康

- ・自己の将来について肯定的にとらえ、夢や希望に向かって粘り強くやり抜く実践的な態度を養う。
- ・自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を送ろうとする態度を養う。

2 目指す生徒像の具現化のために

心豊かな生徒

「かかわる」

震災津波の経験を踏まえた

人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画

- ・思いやりの心と感謝の心を持って人と接し、自己の思いを行動で表そうとする心情を育てる。
- ・常に地域や人々の状況に関心を持ち、具体的な行動で貢献しようとする実践的な態度を育てる。

2 目指す生徒像の具現化のために

自ら学ぶ生徒

「そなえる」

震災津波の経験を踏まえた
自然災害の理解・防災や安全

- ・授業において基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、生涯活用できる自学自習の力を育てる。
- ・知識理解のみでなく、生きて働くはがれ落ちない学力(学ぶ力・学ぼうとする力・学んだ力)を育てる。
- ・体験活動の中に意図的に自己決定を求める場面を設定し、主体的な思考力・判断力を育てる。

3 本校における復興教育

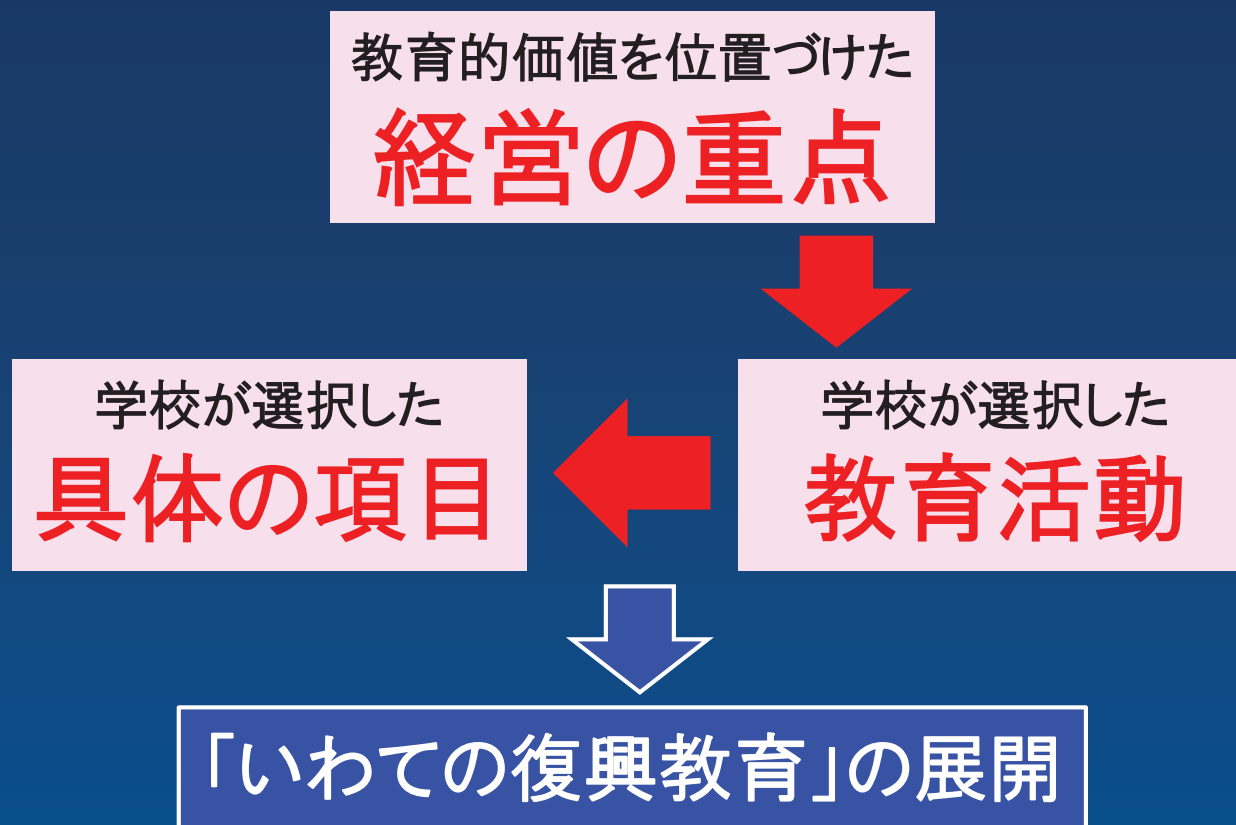
未
宮来学
古

ふるさと「みやこ」をつくる
ひとづくりを目指す

- ・本校の教育活動全体を「宮来学(みやこがく)」と名付け、宮古をつくるひとづくりを目指す
- ・「宮来学」＝「復興教育」ととらえ、学校教育全体で復興教育を進めていく

総合的学習の時間、各教科、道徳、キャリア教育と一体化したカリキュラムを作成し、将来の宮古を背負っていく人材育成を目指す。

4 復興教育のカリキュラムの作成



カリキュラム作成の際、具体の項目をもとに新しい教育活動を創造するのではなく、震災発生後から今まで行ってきた本校の活動の中に復興教育の具体の項目を加味して行くようにした（組み替え型）。

4 復興教育のカリキュラムの作成

○平成29年度 復興教育計画

月	学年	教育活動	いきる	かかわる	そなえる
4	1.2	グループエンカウンター	③		
	3	修学旅行個人新聞作成		⑬	
5	1	キャリア学習(13歳のハローワーク) 実習船非常時対応訓練 (小中高連携)	④	⑪	⑱ ⑳
	1.2.3	体育祭 避難訓練 (火災想定)	⑦	⑨	⑲ ㉑
6	1	後藤新平「復旧にあらざ復興なり」		⑭	⑰
	2	宿泊研修		⑩	
	3	職場体験事前学習		⑬	
7	1	実習船乗船体験学習 (中高連携) 復興教育講演会	② ④ ⑤		⑮

4 復興教育のカリキュラムの作成

月	学年	教育活動	いきる	かかわる	そなえる
8	1	復興ソング「未来へ」歌詞読み取り学習		⑪ ⑨	
	1.2.3	講義「復興ソングができるまで」		⑨	⑮
9	1	身近な人へのインタビュー 津波の起こるメカニズム（理科）		⑧ ⑭ ⑫	⑯
	1.2.3	全国校長会訪問・復興ソング披露 心のサポート授業	⑥	⑩	
10	3	飯岡中学校交流会		⑩	
	1.2.3	文化祭		⑨	
	2	家族のための食事（家庭科）		⑧	
11	1.2.3	登校時における小中合同避難訓練（津波 想定）			⑰ ⑳
3	1.2.3	東日本大震災追悼集会	①	⑬	

5 具体的な取り組み例

(1) 復興教育講演会(1学年)

① ねらい

- ・ふるさとを愛し、ふるさとのために活躍している方のお話を聞き、夢や希望を持ち挑戦し続けることの素晴らしさを実感する。(【いきる】④夢や希望の大切さ)

- ・震災津波の被害から復旧・復興して行く取り組みについて知り、どんな状況においてもやり抜く強さについて考える(【いきる】⑤やり抜く強さ)

② 講師 山根幸伸氏(宮古市・カキ養殖業)

- ・宮古市特産品である「花見カキ」の開発・生産を行う。
- ・震災津波により養殖施設が全壊するがわずか1年で復旧。

5 具体的な取り組み例

(2)身近な人へのインタビュー(1学年)

①ねらい

・身近な方々の仕事について聞き、その回答をまとめることを通して、家族の絆や家族の一員としての喜びを実感する。

(【かかわる】⑧家族のきずな)

・震災発生後、身近な方々の職場がどのように復旧・復興されてきたのかを聴き、まとめることを通して、まちづくりについて考えるきっかけとする。(【かかわる】⑭復旧・復興へのあゆみ)

②活動内容

・事前学習とインタビュー内容の検討

・インタビューの実施

・聞き取り内容のまとめと、個人新聞の作成

5 具体的な取り組み例

(2) 身近な人へのインタビュー(1学年)

③ 生徒の感想

- ・父は消防団に参加し、不明者の捜索をしていたそうです。こんなに身近に復興の手伝いをした人がいたことを知りませんでした。私を感じたのは、自分の見えないところでたくさんの人のお世話になっていたということです。そのことを忘れずに日常生活を送りたいです。
- ・宮古市のために頑張ってくれた人たちに感謝したいです。その人たちのおかげで今の生活が送れているからです。
- ・父が断水地域の復旧に取り組んだことを知らなかった。大きな災害にそなえていろいろな工夫をし、未来のために災害に強い地域にしていきたいと思いました。
- ・祖父は地域のために救援活動をしたそうです。地域のみんなを助けたくて活動したと聞いて、その姿はヒーローのようだったろうなと思いました。

5 具体的な取り組み例

(3)生徒会作成復興ソング「未来へ」の継承の活動

①ねらい

- ・震災発生後に本校の先輩が作成した復興ソング「未来へ」の歌詞を読み取り、そこに自分たちの思いを重ねながら、復興ソングを継承していく(【かかわる】⑨仲間や地域の人々とのつながり)
- ・震災発生時の先輩たちの活動とともに、当時の状況を振り返り、復興ソングが誕生した背景を理解する。(【そなえる】⑮東日本大震災津波の様子と被害の状況)

5 具体的な取り組み例

(3)生徒会作成復興ソング「未来へ」の継承の活動

②復興ソング「未来へ」について

- ・平成25年度生徒会が作成
- ・作成のねらいは、
「多くの人と支え合ったことや支援を忘れないため」
「当時の『頑張っていこう！』という思いを思い出すため」
「震災の記憶と、当時の気持ちを風化させないため」
- ・歌詞は全校生徒からのアンケートをもとに作成
- ・作曲も生徒が行なった
- ・上級生から新入生に歌い継ぐ活動を行なっている

5 具体的な取り組み例

(3)生徒会作成復興ソング「未来へ」の継承の活動

③復興ソング「未来へ」の歌詞の読み取り(1学年)



・歌詞の意味を吟味し合い、それを交流することによって、当時の生徒たちの思いに迫りながら、自分たちの思いを重ねることができた。

【生徒の感想】

・この歌には先輩たちの思いがたくさん込められていることが分かった。復興ソングを歌うときは先輩の思いを忘れないで歌って行きたいと思った。



5 具体的な取り組み例

(3)生徒会作成復興ソング「未来へ」の継承の活動

- ④全校生徒による復興ソング「未来へ」学習会(1~3学年)
 - ・震災発生時、学校の状況やその後果たした役割について、確認した。
 - ・特に、平成24年度に行ったボランティア活動や、他校との交流について、新聞記事等を活用しながら振り返った。
 - ・平成25年度、当時から勤務している先生から、復興ソングの作成に至る経緯をプレゼンテーションを用いて説明した。
 - ・当時の生徒会担当から、歌詞がどのようにして作られたのかを説明した。
 - ・最後に、生徒会執行部の代表者から全校生徒へのメッセージが伝えられた。

5 具体的な取り組み例

(3)生徒会作成復興ソング「未来へ」の継承の活動

④全校生徒による復興ソング「未来へ」学習会(1～3学年)



5 具体的な取り組み例

(4)「防災教育・復興教育推進事業」(いわての復興教育スクール)と関連した活動

- ① 実習船非常時対応訓練
- ② 実習船乗船体験
- ③ 小中合同登校時避難訓練(津波注意報・警報想定)
- ④ 復興・防災新聞の発行
- ⑤ 神戸市立渚中学校「1.17防災・減災学習の日」視察
- ⑥ 復興・防災パンレットの作成(予定)

6 成果と課題

【成果】

- 今まで行ってきた教育活動について、復興教育の観点を加味した上で復興教育年間計画を作成することで、教職員の共通理解を図ることができた。
- 小、中、高で連携して取り組みを行うことで、高校生から学び、小学生のリーダーとなる意識を持たせることができた。
- 避難訓練の中に、自己決定の場面を設定することによって、主体的に考え、判断する力を育てることができた。
- 地域の方、家族、教職員からの話を聞くことを通して、郷土を愛し、復興・発展を支えようとする思いを醸成することができた。

6 成果と課題

【課題】

- 復興教育の観点をもとに、各教科における復興・防災教育の充実を図るための年間計画の吟味を行う必要がある。
- 各機関との連携のもと、より実践的な避難訓練の実施。
- 来年度以降の、小・中・高の連携の取り組みの在り方。
- 復興ソングをはじめとする生徒会活動を有機的に継承させていくためのカリキュラムマネジメントが必要。

7 最後に

渚中学校「1.17防災・減災学習の日」

ねらい

- ・復興のシンボルとして開校した理念を再確認する。
- ・震災について考え、具体的な行動に移せるよう訓練する。

日時

- ・平成30年1月17日 1校時～6校時

日程

- 8:25 全校集会
- 9:00 講演会「石田裕之氏」シンガーソングライター・防災士
- 11:50 「ひょうご安全の日」追悼式典参加
- 12:55 防災授業 1年 防災訓練参加、見学
2年 DVD視聴
3年 防災ゲーム
- 14:20 シェイクアウト訓練、避難訓練

7 最後に

渚中学校「1.17防災・減災学習の日」

全校集会

・黙祷

「阪神大震災・東日本大震災・新潟中越地震・熊本地震の・・・」

・長山桂子校長先生のお話

「自分自身も阪神大震災の被災者。震災で神戸は多くのものをなくしてしまった。しかし、与えてくれたものもある。やさしさ、あたたかさ、きずな。」

「みんなは震災を体験していない。しかし、体験したかしていないかは関係ない。このHATの地に生まれたからには、命・絆・仲間を大切にしてほしい。東北は今も復興の途中。東北に思いをよせてほしい。」

7 最後に

渚中学校「1.17防災・減災学習の日」

講演会「石田裕之氏」シンガーソングライター・防災士

- ・阪神大震災当時は中学2年。ボランティアを行った。
→中学生にもできることがある。みんなの励みになる。
- ・3.11、涙が止まらなかった。宮城を中心に60回以上ボランティア活動を行った。
→まだ苦しんでいる人がたくさんいる。遠くに、身近に、家族に・・・やさしい気持ちのアンテナを高くしてほしい。
- ・「家族や友だちを大切に」「地域の人たちに挨拶をする」
→人と人とのつながりがあなたの命を救う。いざという時の防災力を高める。

7 最後に

渚中学校「1.17防災・減災学習の日」

防災授業 2年 DVD視聴

「釜石の奇跡～子どもたちが語る3.11～」

- ・想定にとらわれない【判断力】
- ・最善を尽くす【忍耐力】
- ・率先して避難する【自発力】

避難の3原則

渚中学校（神戸市）では、復興教育・防災教育の中で、東日本大震災についての学習をたくさん取り入れているとのこと。

7 最後に

渚中学校「1.17防災・減災学習の日」

渚中学校防災ジュニアリーダーの作文より

今から23年前、神戸の街を襲った阪神淡路大震災が起きました。私たちは実際にあの大震災を経験していないので、あの時どんなにつらくて悲しいのかはわかりません。しかし、今までの震災学習を通して、命の大切さ、人と人とのつながり、そして毎日を大切に生きていくということがどれほど大切かということ学びました。震災では多くの人たちが被害に遭い、心も体もボロボロになったかと思えます。それでも力強く生きて前へ進もうとした人たちのおかげで、今、私たちがあるのだと思えます。私たちにできること、それは防災・減災を学び、次の世代へと伝えていくこと、今当たり前前にできていることを大切にして、これからも力強く生きていくことだと思えます。

いきる

かかわる

そなえる

郷土を愛し復興を支える姿